学校番号	３０１３

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説日本史Ｂ」　（山川出版社）						
副教材等	図説日本史通覧　（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時間軸を感じる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

２　学習の到達目標

世界史的な視野に立ちながら、日本の歴史を国際環境と関係づけながら考察する。
時代的背景として政治、経済、文化、対外関係など総合的な歴史的思考力を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	古代･中世史を中心とする日本の歴史に対する関心と課題意識を高め､意欲的に追究するとともに､国際社会に主体的に生き国家･社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしているか。	古代から日本が国家として形成されていく過程を国際環境と関連して考えることができているか。	古代・中世史を中心とする日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしているか。	古代・中世史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けているか。
評価方法	提出課題 定期考査 授業態度	提出課題 定期考査 授業態度	提出課題 定期考査 授業態度	提出課題 定期考査 授業態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第11章　占領下の日本	・非軍事化と民主化を要とする占領政策が戦後日本の政治・社会・経済の基礎を築いたこと、国民が積極的に受け入れることによって戦後改革が実現したことを理解する。 ・冷戦構造の深まりが占領政策を転換させ、サンフランシスコ講和と安保条約によって現在までおよぶ戦後日本の対外関係の基軸が成立したことを理解する。	○			○	a: 戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。 c: 新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 戦後は基本的人権の尊重・国民主権・平和主義を基本政策に出発したことを理解し、その知識を身に付けている。戦後世界の動向と日本との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度

前期	第12章　高度経済成長の時代	・高度経済成長をとげる過程で日本社会が大きく変貌したこと、また、アメリカのアジア政策に協力することによって日本は国際的地位を高めたことについて理解する。	○			○	a. 経済の発展や国際社会における日本の役割などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b.　高度経済成長期の日本がかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c. 高度経済成長期の国民之生活を、当時の新聞や映像から考察している。 d.　日本の敗戦から高度経済成長期に至る過程を理解し、それをもとに現代日本のあり方を考察しようとしている。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度
前期	第13章　激動する世界と日本	・高度経済成長の終わりとともに、経済摩擦などの新たな課題が生まれ、55年体制の崩壊にいたる政治構造の変化が生じたことを考察する。 ・冷戦構造の崩壊による流動的な世界情勢が生まれる中で、21世紀の日本が直面している多くの課題があることについて理解を深める。	○			○	a. 現代日本のかかえる課題などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b. 現代日本のかかえる様々な課題について、多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 c.　年表や新聞、雑誌を活用して現代の日本と世界の関係について調べるための情報を適切に選択している。 d. 戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。２１世紀の展望をもつ。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度

前期	第1章　日本文化のあけぼの	・・人間がまだ文字を知らない時代の歴史は、地中に埋まっている遺跡から考古学の成果によってわかることの意味を考えさせる。 ・石器時代には、平等な社会だったが、農耕がはじまると貧富の差があらわれ、権力者が出現してくることの意味をとらえさせる。 ・自分たちの地域に残る古墳と畿内にある巨大な古墳とのかかわりを調べさせる。	○	○	○	○	a.　日本の原始社会に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b.　地域に残る遺跡から原始社会について考察するとともに、その成立過程や特徴を適切に表現している。 c.　地域に残る遺跡や博物館などを訪ねるなどして原始社会の文化の特色に関する諸資料を収集し、原始社会の様子を調べるための情報を適切に選択している。 d.　原始社会がまだ貧しいがゆえに平等な社会構造であったことを理解し、その知識を身に付けている。農耕の開始によって権力者があらわれ、クニができあがってくることを理解し、その知識を身に付けている。	a, b, c, d 提出課題 定期考査 授業態度

後期	第2章　律令国家の形成	・飛鳥・奈良に古代の都が成立した意味を考えさせる。 ・古代国家が中国など東アジア地域との関係のなかで成立したことをとらえさせる。 ・古代国家の政治・経済・文化の特徴をとらえさせる。 ・古代の都と地方の関係を調べさせる。 ・古代国家の税制の特徴をとらえさせる。 ・鎮守国家仏教の特徴をとらえさせる。 ・律令社会の変質過程をとらえさせる。 ・藤原氏が摂政関白として権力をもつようになる過程を理解させる。		○	○		b.　古代国家が東アジアの動向と関連して成立したことを考察するとともに、その過程や結果を適切に表現している。 c.　古代国家の確立に関する史料を読み、そこから歴史的事実や社会の様子を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	b, c, 提出課題 定期考査 授業態度

後期	第3章　貴族政治と国風文化	・荘園公領制が成立していく過程を理解させる。 ・武士がしだいに権力を獲得していく過程を理解させる。 ・御家人制度を基盤とする鎌倉政権の意義をとらえさせる。 ・農工業の発達と流通の発展の関係をとらえさせる。 ・蒙古襲来が鎌倉幕府に与えた影響について考えさせる。 ・鎌倉時代の文化と仏教の特徴をとらえさせる。 ・執権政治と悪党の出現の意味を考えさせる。	○			○	a: 武士の出現や武士の生活や鎌倉時代の出来事に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 d: 武士が土地の所領関係でむすびついていることを理解し、その知識を身に付けている。荘園などを武士が実力で奪いとり、力を獲得していく過程を理解し、その知識を身に付けている。東アジアの動向が日本の歴史に大きな関わりをもっていることを理解し、その知識を身に付けている。	a, d 提出課題 定期考査 授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けているか。